

令和元年 12 月 10 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

- 1 日 時 令和元年 12 月 4 日（水）19：00～21：00
- 2 場 所 東高津小学校体育館（高津区北見方 2-5-1）
- 3 対象地域 諏訪排水樋管周辺地域
- 4 出席者
上下水道局総務部長 大畑 達也
上下水道局下水道部長 鈴木 利之
上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴
上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通
上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太
上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛
上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利
上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明
上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

総務部長：

それでは、台風 19 号による浸水被害に関する説明会の開催にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。はじめに、このたびの台風 19 号では、多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇し、多摩川の水が、下水道管を逆流したことにより、排水樋管周辺地域において浸水被害が発生いたしました。結果的に、このような被害が生じたことについて、お詫びを申しあげますとともに、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。下水道事業者として、今回の事態を重く受け止め、原因等をしっかりと検証した後で、今後、同様な事態に遭遇しても被害が最小限となるよう、しっかりと対応策を講じてまいりたいと考えております。本日の説明会では、被害の概要、対応状況等について説明をさせていただき、ご質問やご要望をお聞きしたいというふうに考えているところでございます。詳細につきましては、担当の課長から説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

司会：

続きまして、説明会の進行等に関し、3 点ほどご説明をさせていただきます。はじめに、

説明会にご参加されている方、個人が特定できる写真や動画の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。次に、この説明会の記録を作成するため、録音をさせていただいておりますのでご了承ください。次に、この会場の周辺には多くの住宅があるため、運用上、使用できる時間が9時までとなっておりますのでご協力をお願い致します。それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤から説明をさせていただきます。

管路保全課長：

お配りさせていただきました資料に基づいて、ご説明させていただきます。右下にページを記載させていただいております。右下ですね、諏訪-2と書いているA3のページになります。ご覧ください。こちらは、浸水被害が発生をした諏訪排水樋管周辺地域の位置図となっております。右下の凡例にもお示しをしておりますが、赤い丸印の場所に諏訪排水樋管が設置されております。この、諏訪排水樋管の役割は、緑の線で囲われた六ヶ村堀排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するための施設となっております。この六ヶ村堀排水区は、汚水と雨水を分けて排水する分流式下水道となっております。今回の浸水の原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積していた状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて地盤が低い排水樋管周辺箇所であふれたことによるものと考えているところでございます。続きまして、資料の3ページ、諏訪-3ページをご覧ください。諏訪排水樋管箇所における浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示しをしておりますとおり、濃い青線でお示しをしておりますのが諏訪排水樋管、青い線が樋管に接続をしている下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが上下水道局のパトロールで確認をした浸水の範囲となっております。この浸水の範囲でございますが、職員がパトロールのときに確認したものでございますので、実際に浸水をした範囲と多少の誤差があるかとは思いますが、現在、再度調査を行っております。近々、最新の浸水範囲については修正したものとして、ホームページの方に掲載をしたいと考えているところでございます。大変申し訳ございませんが、この点につきましてはご理解いただけますよう、お願い申し上げます。また、右側にはパトロールのときに撮影をした現地の写真でございます。位置図に記載がある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。こちらの地域では、想定浸水面積が約13ha、赤い丸印でお示しをしている写真を撮影した箇所でおおよそ2mの浸水があったことを確認しております。続きまして、諏訪-4ページをご覧ください。今回の台風第19号による諏訪排水樋管箇所の災害対応についてご説明いたします。左上の図をご覧ください。繰り返しになりますが、赤い丸でお示しをしている所に諏訪の排水樋管がございまして、緑枠で囲んだ六ヶ村堀排水区の雨水を多摩川へ排水する施設となっております。上段右側の樋管ゲート写真にお示しをしておりますのが、その諏訪排水樋管でございまして、縦が2.97m、横が1.7mのボックスカルバートが2つある2連の構造となっております。この

樋管の縦断図を下段にお示しをしております。縦断図に記載の数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございます。樋管の底部の高さは 6.425m、諏訪排水樋管周辺の最低地盤高は 10.244m となっております。樋管に設けているゲートは、上段右側の全景写真①、②のような構造となっております。その位置は、下段の縦断図の破線の部分、縦に入っている破線ですが、ゲートを記載させていただいております。こちらに設置しております。通常、ゲートを上げて樋管を開けておりますが、このゲートを下げて樋管の出口を塞ぐことで、河川から下水道への逆流を防止することが可能です。その一方で、ゲートを降ろしている間に市街地に雨が降ると、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があります。操作手順に従い操作をしております。続きまして、諏訪-5 ページをご覧ください。次に、この諏訪排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。上段の黄色く着色をしている箱書き部分、諏訪排水樋管についてをご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には諏訪排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている 2 点目の箇所に記載をしておりますが、操作の前提といたしまして、降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合には、諏訪排水樋管ゲートを全開にする、としております。これは、ゲートを閉鎖することは内水氾濫の原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合はゲートを閉めないこととしております。この 1 つ上、1 点目をご覧ください。操作の判断といたしまして田園調布（上）水位観測所の河川水位 6m において、周辺状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断することとしております。中央の左の図は、台風第 19 号が上陸した 10 月 12 日から 13 日にかけての多摩川の水位と雨量データを時系列で提示したものでございます。青い折れ線でお示しをしておりますが、田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により、河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という、田園調布（上）水観測所での計画高水位である 10.35m を超える、観測史上最高水位を記録しております。また、青紫の棒グラフが高津道路公園センターでの雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の諏訪排水樋管における活動記録を記載しております。この活動記録をご覧くださいますと、12 時 40 分頃に、田園調布（上）水位観測所の河川水位が氾濫注意水位である 6m に達したことを確認しておりますが、この時点では、降雨が確認されていたこと、台風第 19 号がまだ上陸しておらず、今後大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより、内水氾濫が拡大する可能性など総合的に判断し、操作手順に基づき、ゲートを閉めないという判断を行っております。その後、降雨が実測されなくなったこと等を確認しましたが、河川水位が下降傾向であったことから、ゲートを閉めないという判断を行っております。以上が、10 月 12 日から 13 日にかけての諏訪排水樋管ゲートの操作に関する実態でございます。続きまして、下段の黄色で着色をしてあります箱書きをご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。今回の浸水は、下水道管理者としては内水氾濫を発生させることが無いよ

う、操作手順に従い、ゲート操作の判断を行っていたところではございますが、我々としても、経験したことがない事象であり、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川の水があふれたことによるものと考えているところでございます。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討する、と記載をさせていただいております。しっかり検証を行い、まずは効果が早く発揮できることから取り組んで、被害の最小化に努めてまいりたいと考えているところでございます。続きまして、次の諏訪-6 ページをご覧ください。こちらは、諏訪排水樋周辺地域の地盤高図と浸水範囲等をお示しをしたものとなっております。こちらにつきましては、恐縮ではございますが、後ほどご覧くださいませようお願い申し上げます。私からの説明は、以上となります。ありがとうございました。

司会：

それでは、引き続いて質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言の機会を確保いたしたいと思っておりますので、大変恐縮ではございますが、質疑応答はお一人様概ね5分ということをお願いできればと思います。また、本日は座席を縦4列のブロックに分けさせていただいております。ご質問は、ステージに向かって左のブロックの方から順に伺ってまいりますので、よろしく願いいたします。それでは、ご質問がある方は挙手をお願いいたします。

質問者1：

基本的な確認からなんですけれども、例えば諏訪-4 ページの図なんですけれども。この排水樋管のエリアの確認なんですけれども、緑色で囲われた部分が、排水区となっておりますけれども、今回の排水樋管に流れ込むのはこの緑の区画の内側のみなのか、それをまず聞きたいのと、排水樋管は竣工は何年なのか、大分経っていると思うんですけれども。健全性、もう大分経ってますんで、メンテナンスとか健全性。例えば地震であるとか、そういう害、こん時、大丈夫なのか、今後心配になってくるんで、聞きたいということです。それから、流入する流体なんですけれども、雨水と言われましたけれども、これはいわゆる、道路の排水溝の水なのか、あるいはその他の、要するにこの緑のエリアに降った雨水のみなのか、あるいは他の流体が入ってくるのか、というのを確認したいですね。それから、図でちょっとわかりにくいんですけれども、例えば左側の、諏訪-4 ページなんですけれども、二ヶ領用水とクロスしているように見えちゃうんですけれども、実際はどうなんでしょうか。つまり、六ヶ村排水樋管の上流側がいくつかわかれてきていますよね。JR溝ノ口駅とかあるいはポレポレ通りとか、要するにその、経路について、詳しくお聞きしたいということです。以上です。

下水道計画課長：

まず最初に、こちら諏訪排水樋管から多摩川に出て行くエリアなんですが、ご質問でございましたとおり、諏訪-4ページの、左側の上段で囲ってございます案内図の、緑側で囲まれてる部分、こちら六ヶ村堀排水区と、我々呼んでございまして、こちらの雨水を、最終的に集めて、諏訪の排水樋管の方から多摩川に流してございます。それと、その中で、どういった経路で流れていくのかということ、二ヶ領用水のお話も出たんですが、こちらの緑のエリアの中の下水の排除方式というのは、分流式の下水道でございまして、基本的に皆様お使いになっている雑排水と、あと雨水、そちらは別々に排水をして、最終的に道路の中でも、污水管、雨水管ということで、污水につきましては処理場へ、雨水につきましては、こちらの諏訪排水樋管を通して多摩川に流すようになってございます。ですので、こちらの図のところに、黒い線で、排水樋管に行っているものが雨水幹線でございまして、それぞれ、血管でいうと動脈みたいなものですね。こちらに雨水を集めて、最終的に諏訪排水樋管にいきます。その時に、二ヶ領用水とクロスはするんですが、雨水管の方が道路の下に埋まってございますので、そちらについては二ヶ領用水と繋がっているということではございません。ですので、この緑色の排水区は、集水して、雨水幹線を通して、多摩川の方に流れ出るというものでございます。

質問者 1 :

今のところ、ちょっと、わかりにくかったんですけども。二ヶ領用水とクロスしているのこれ、平面クロスなのか、あるいは、高低差のあるクロスなのか、通過するだけなのか、そこをちょっと確認したいなと。要は何言いたいかっていうと、この今回の排水樋管に流れてくる水。これが要するに、雨水だったらば我慢できるんですけども、いろんな汚い水が流れてくるのか、どうなのかっていうことを聞きたい。

下水道計画課長 :

基本的に、雨水というふうに考えていただいて、よろしいと思います。

質問者 1 :

生活排水は絶対に来ないと。

下水道計画課長 :

それは、下水道の方式で分けてございますので、そのご理解でよろしいかと思います。

質問者 1 :

戻りますと、二ヶ領用水と、ここはどうなっているんですか。この道のところは。

下水道計画課長 :

ここの部分は、二ヶ領用水の下に雨水幹線が通っているというご理解で、はい。

質問者 1 :

じゃあ、交わることはない。

下水道計画課長 :

そうですね。

質問者 1 :

はい。それから健全性は。

中部下水道事務所管理課長：

排水樋管の健全性につきましては、耐震性があるのかというご質問だったと思うんですけども、現在、確認中でございます。これまで、耐震診断等がされていないので、現在確認中です。こちらの排水樋管は昭和 39 年に建設されております。それで、排水樋管ゲートのメンテナンスにつきましては、毎年 1 回、ゲートメーカーによる、専門業者による点検、さらに、河川の管理者であります、国土交通省の検査を年に 1 回行ってございまして、それ以外に、私ども中部下水道事務所のほうで、ゲートの操作をしまして、点検のほうを行っております。

質問者 1：

その、竣工なんですけれども、今、昭和 39 年ですか。これは、例えばその、溝ノ口駅の方までも含めて、よろしいんですかね。要するに、この第 1 号、第 2 号・・・

中部下水道事務所管理課長：

すいません、今、ご説明さしあげたのが、ゲートの部分だけになります。

質問者 1：

ゲート。

中部下水道事務所管理課長：

はい。排水樋管ゲート。

質問者 1：

ああ、ゲートはわかりました。ゲートじゃない。ゲートっていうのは、川のところじゃないですか。それより内側。上流側。

下水道計画課長：

今のご質問なんですけど、雨水幹線のほうにつきましては、樋管が一番、下流にございますので、当時、それができてから、そこから、基本的には下流から上流へ管は造っていくことですので、それよりは新しいものになってくるかと思えます。

質問者 1：

だって、今回、水が溢れたのは、その、ゲートのところじゃなく、土手よりもっと上流側でしょ。溢れ出たのは、マンホールか何かがある。

下水道計画課長：

そうですね、はい。

質問者 1：

だから、そこんところは何年ですか。あるいは、ずっと、上流側行くと、第 1 号、第 2 号ってあるじゃないですか。あるいは JR 溝ノ口駅。その辺の歴史的なこと。私は実はこの東高津小学校を造ってるの覚えてるんですよ。ただその、もっと上流側はわかりませんけど。

下水道計画課長：

そうですね。上流側は、それより、布設年度は新しくなっていくと思うんですけど。いっぺんに造れませんので、何年かにかけて、ずっとやってきてますので。

質問者 1 :

はい、わかりました。で、ここに座っている人たちは、専門家じゃないんで、そちらさんの説明でね、カルバートなんつったって、わからないと思うんだよね。うん。なるべく、そう平たい言葉で説明してもらえますかね。

下水道計画課長 :

はい、わかりました。ありがとうございます。

質問者 2 :

3点ほど伺います。まず、諏訪-3の図で、うす青い、この浸水範囲という部分ですけれど、これ最終的に作成した、この資料を作成されたのは、何日の、いつ頃になるのかという点と、床上浸水と床下浸水の割合ですね、とがありましたら伺いたい。それが第1点です。第2点は、その、諏訪-5の図の中で、パトロール開始という表現がありますけれど、これの管轄は、市のほうで、下水道局でやられたということなのか、別の部署なのか。あるいはもう1つ。3点目で、最終の質問ですけれど。移動式ポンプ設置されて動作されたというのは、具体的にはどういう作業をされたのかという、その3点について伺います。

管路保全課長 :

はじめの、諏訪-3のこの水色の着色でございますが。こちらは、10月12日と13日にかけて、中部下水道事務所で現地をパトロールしてあります。そのパトロールした時の、浸水と水があがっている状況と、あと翌日以降、数日ですが、また、下水の管とか調査にまいってまして。その時にですね、ここまで水があがったのかなということ、その数日間のデータで、これを作成してあります。先ほども、私の方で、ご説明させていただいたんですが、今、他の説明会でも、実際この範囲少し違うぞという、ご意見頂いております。今、再度調査をしております。最新版につきましては、今後、ホームページでアップして、見ていただきたいなと思っております。あと、床上と床下の割合でございますが、申し訳ございません、今、最新の数値を、把握しておりませんので、後日、議事録と併せてお示しできればと思っております。

(当日回答できなかった事項に対する回答)

令和元年12月4日発表の、台風19号に伴う物的被害集計表によりますと、高津区の住家被害のうち約85%が床上浸水、約15%が床下浸水などの被害となっております。

中部下水道事務所管理課長 :

パトロールの内容なんですけれども、パトロールは中部下水道事務所の職員で行っております。続きまして、移動ポンプ設置場所等につきましては、諏訪-3ページを見ていただきたいんですけれども、諏訪-3ページの赤い点がついております、矢印の位置の、矢印の

先の赤いところ、こちらに移動式ポンプという、水を排水するためのポンプを持ってきて、こちらにポンプを設置して、この赤い点のところは地盤高が低いので、こちらの水を、諏訪排水樋管の、太い矢印じゃない側、こちらに、角落とし室という、下水管の部屋がありまして。こちらに排水する、作業を当日行いました。当日行ったんですけども、今回、これまで経験したことのないような多摩川が、水位が上昇したために、排水ポンプの排水効果が、見られなくなってしまいました。浸水が発生しまして。その時点で排水、移動式ポンプのほうは、トラックの上においてありましたので、水没しそうになったということで、一時退避をしております。

質問者 3 :

今回の災害の原因、浸水が出ている原因とか、ゲート操作に関する検証は、これから進めて、ホームページで、それを公開していくということを伺いました。なのですが、50年に1回の予想もしなかった、雨量ということなんですが。私の感じだと、50年ということよりも、もう50年安心のようだというだけではまったく無く、来年にも、また同じようなことが起こる、あるいは、心配する、ところでは、さらに多くの雨量が、ということも考えなくてはいけないというように思うんですが。多摩川、ちょっと話は前後するかも知れませんが、今後のことについてということで、ちょっと早めに言ってしまいますけれど。多摩川全体の、状況把握というか、水の、そういうことと、多摩川全体を、他の町村含めてですね、そういうことを考える、機関があるのか、あるいはこれから作っていくのか。そういうことも含めて、今回は、溢れなくて、よかったとは言いませんが。やっぱり、下水道局の、溢れるとなったら、下水道局の、範囲外というか、これはもう全市的な問題になってしまうと思いますが。そういうことも含めてですね、全体の管理といいますか、水の管理というものを、大雑把にどういう方向で行こうとしているのか。あるいは、その水道局でできる範囲と、全体の、国全体、町全体で、対策を、長期的な視点というか、そういうことでやっていくのか。これからやっぱり毎年こういう心配しないといけない時代になってきたので、その辺も含めて、ちょっと大きな問題になっちゃうかもしれませんが、方向性だけでも、何か考えて、あるいはどんなところがあれば、披露していただきたい。こういうふうに思います。

下水道計画課長 :

今いただきました、多摩川全体の把握のようなお話なんですけど、多摩川自体、国が管理しています。下水道でできる、川崎市だけでできることではないということも、今回の件を受けて非常に痛感したことでございますので、少なくとも近隣の、東京都の大田区さんであったり、世田谷区さんであったり、そういうところと、少し連携しながら、意見交換とかしながら、より対策を深めていけるような方向に持っていきたいなと思ってございます。また、国につきましては、河川管理者でございますので、市の中の河川課とも連携をして、国の京浜河川事務所等に、今回の件を受けて、多摩川の水位という部分では、我々

としても非常に大変な思いをしておりますので、市民のみなさまが安全にお住まいいただけるように頑張っていきたいなと思っております。具体的にまた来年、こういう雨が降るのではないかということで、近年、地球の温暖化とかそういうところで、雨の降り方も変わってきていると、いうふうなところは認識しておりますので、少なくとも、即効性のあることといたしまして、今回の手順、そういうところの見直しであるとか、あるいは、ゲートの話もでてますのでゲートの改良であるとか。あと、移動のポンプ、その辺をしっかりと、来年の雨期までに、取り組みを進めていきたいと思っております。

質問者 4 :

諏訪-5のゲートなんですけれども、今回、この諏訪排水樋管のゲートの開閉ができるのか、開くのかいろいろあると思うんですけれども。お話ですと、その内水氾濫を防ぐためにゲートは開いている状態、でも結果的に多摩川からの逆流で氾濫した、ということなんですけれども。上で四角で囲ってある、ゲートを閉める基準なんですけれども、降雨がある場合や大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合はゲートを全開にすると、これちょっとアバウトだなという気がしております、実際その雨の量って、ちょっとでも降っていれば開けなきゃいけないものなのか、その辺具体的なゲートの開閉の基準が、本当にこれだけなのか、あるいはもう少し具体的な基準があるのか、というところをまず聞きたいのが1点と。あと、今の説明をお聞きすると、内水氾濫に関しては、手立てがあまりないようなニュアンスを感じました。いわゆるこういった、多摩川の逆流があるときに、ゲートを閉じてしまったら、内水氾濫を止める手立てがない、という形状なのか。もしそういうことであれば、今後その内水氾濫を防ぐためにはどうしたらいいか、まあ具体的な例でなくてもいいんですけれども、例えば大きな溜池のようなものを造ればいいのか、というような、方針ですね。それをお聞きしたいなという2点です。

中部下水道事務所長 :

1点目のゲートの操作の判断基準につきましては、排水区内に降雨または降雨のおそれがある場合はゲートの全開を維持するというのが、手順にございまして。今回、氾濫注意水位6mを超えた時点で、排水区内に降雨がありまして、今後、まだ台風が川崎市に向かってきている途中で、今後、予報では1時間あたり50mm、局地的には80mmの降雨が予測されていたということで、ゲートを閉めるという判断を行っておりません。そういった、ゲートの操作を行った結果、今回のような甚大な浸水被害が発生しておりますので、今後、ゲートの操作の検証をして、ゲート操作の手順を見直して行って、こちらの排水樋管は雨水の排水樋管になりまして、ゲートを閉めてしまうと降った雨が流れなくなってしまうということです。そちらを、解消させるためには、ゲートを閉めたあとに、下水管に流れてくる雨水を多摩川に排水する必要がありますので、これまで、移動式ポンプというものもやっておったんですけれども、今回の台風19号では排水効果が見られなかった、ということなので、今後は、直接多摩川に排水できるような排水ポンプを配備しまして、直接、

多摩川の方へ、現場の諏訪 2 丁目の低い場所から、排水して、内水を排除するという方法を、今考えているところでございます。

下水道計画課長：

内水氾濫についてのご質問をいただいたのですが、ゲートを閉めた状態で内陸部に降雨がありますと、雨が集まってきて最終的には諏訪の排水樋管の周りのほうで浸水が発生してしまうと、いうこともございます。今回の台風を受けまして、先ほどのお話にありましたような、大きな溜池であるとか、あるいはポンプで出すとか、という手法はございますので、すぐにはないんですけど、今回の件を受けて、雨水を貯める貯留管であるとか、ポンプ場について、検討はしていきたいと考えています。しかしながら、ポンプ場 1 つ造るにいたしましても、かなりの用地も必要になってきますので、その辺も踏まえて、検討に入っていきたいなと考えてございます。

質問者 5：

今日でもう何回目かとは思いますが、今日もあれですか、上下水道局の方だけでしょうか。なんか、前回とか、市長の出席とか、県と国とかというリクエストも出てたと思うんですけど。上下水道局の方だけですか。

管路保全課長：

はい、そうですね。上下水道局の職員でお伺いしております。

質問者 5：

あ、そうですね。ほんとそんな、この諏訪-5 のところの浸水の原因と今後について、めちゃくちゃ簡単に書いてありますけど、これ原因が、今までにない水位だとか、雨量だとか、土砂堆積とか書いてありますけど、今後は樋管ゲートの操作って、なんかあんまりこう樋管ゲートのことを説明しているけど、なんかあんまり、原因に関係ない感じで、そのレベルの話じゃないような気がするんですけど。若干、前の方の質問とも重複するとは思いますが、やっぱり原因の本質的なところは、ゲートの開閉とかポンプレベルの話じゃなくて、今回、横浜市との差が歴然としてると思うんですけど。治水対策の計画、そこじゃないかと思うんですけど。10 年前くらい、先ほど今回のことを受けて検討するとおっしゃいましたが、10 年前くらいにもあったらしいじゃないですか。まあ、2 年前にも床下浸水ありましたけど、10 年前くらいにもあったって言うてるんで。なんでその時に対策をうってないのか。当然、神田川とか鶴見川とか、今回危ないと言われながらも大丈夫だった原因は、放水路とか貯水池ですよ。なんで多摩川のこの辺にはないんですかね。その 10 年前のときに対策うってたら、こういうことにはなっていないんじゃないかっていうのはあるんですよ。なんで、あなたたちだけでは難しいとは思いますが、国、県も含めてですけども、今すぐ動いてほしい、ということで、やっていただかないと行政の責任でも、場合によっては人災じゃないかなと思ってます。その国交省とか県とか市とか他の市とも連携して、広域で治水対策してほしいんですけど。聞かせてほしいのは、この後で

すよね。長期的なこと、それから短期的なことで分けて、まず長期的にはいま言ったようにすぐにでも貯水池なり、放水路なりを動くと、無駄な施設みたいなのに税金使ってほしくないんですよ。まずここに金使って、すぐにでも動いてほしい。それと、短期的には、ほんと来年どうするのかってことで、さっきポンプとか、それから何ですか。土砂が溜まってるとなら早く砂利とってくださいよ。それはもう国土交通省の管理なのかもしれないけど、あなた達の働きかけも含めてですね、動いてほしいってところで、もう一回長期的な対策、それから短期的な対策を具体的に教えてください。これから検討しますっていうのはもう結構です。

下水道計画課長：

先程ですね、何故、そのような施設が検討されてこなかったのかというご質問をいただいたんですが、10年前、平成19年なんですけど、こちらの地区で浸水被害があったという記録がございます。その中で、当時なんですけど、床上が4棟、床下が9棟ということで公式の記録が残ってございまして、当時はその中で、軽減する策ということで仮のポンプを動かしたりとか、その中でやってきたんですけど、結果的に浸水が起きてしまったということで、この4棟、9棟の中でほんとうに雨水貯留管を造るのか、ポンプ場を造るのか、なかなか当時としては議論が難しかったのかなと感じているところでございます。しかしながら、今回、このような被害が実際起きてございますので、まず短期的なものにつきましては、先程からの繰り返しになって申し訳ないんですが、ゲート操作について、そこについてはしっかり検証して、見直しを図っていきたくと。また、ゲートにつきましても、改良していきたくと思っております。あと、閉める状態も想定されますので、そこについての移動式のポンプというものも配備していきたくと、そういうものを即効性がある対策として来年の出水期までにやっていきたくと考えてございます。また、長期的な点につきましては、今までは、雨水の貯留管とか、ポンプ場ということの検討はしていなかったというか、していなかったんです。ただ今回、間違いなくこういうことが起きてございますので、そこは、先程も申し上げたとおり、検討を始めて、抜本的な対策は必要だと思っておりますので、これについては実現に向けて検討していきたくと思っております。

質問者6：

もう台風が来てから1ヶ月半になるんですね。こういう説明会を、各地でやられてきたと思うんですけども、住民の方々から色んな要望や要求を出されてきたと思うんですけど、最初の説明の中で、その対策なんて一切出てこないですよ。今やっとうまく、ポンプを設置しますとか何とかいう話、出てきていますけれども。やはり、まずはやっばし、その対策をきちっとやっばし、出してもらいたいんですよ。もう待たないんですよ。来年の夏にはまた台風が来るわけですよ。我々もやっばし安心して住み続ける町、住み続けられる町っていうのをね、是非やっばし実現してもらったらと思うんですよ。それでちょっとお伺いしたいんですけども、北見方の地域、かなり早い時間に、もう、浸

水ってというか、水が上がってきたというふうに思うんですけど、他の地域と比べてどうなんでしょうかね。そこがひとつ知りたい。それと、私も、水門を見てきたんですけども、水門位置そのものは、やっぱり低いんじゃないかなという感じもしているんですよ。やっぱり先ほども言われましたように、内水氾濫がこわいからということでゲートを閉めなかったよ、ということなんですけれども。やはり、そここのところでやっぱり、ゲートを閉めたときの対策をやっぱり、早急にやってもらいたい。あと、多摩川もね、相当浅くなっただんじゃないかなって気がするんですよ。それで、やはり川崎市としてもですね、国のほうに、多摩川の川底を浚って欲しい、というような要望をね、強くしてもらいたい。それと、そういった防災、天災のね、予算、これをね、きちっと取ってもらって、早急にやって欲しい。もう夏までに、夏までの間にやって欲しい。早急に対策をね、とってもらいたいですよ。以上です。

中部下水道事務所管理課長：

浸水の時間が早い、他の地域と比べてというのは、諏訪の 2 丁目と北見方の中でということですね。一番早かったのはですね、諏訪幼稚園のあります諏訪 2 丁目。こちらは、10 月 12 日の 14 時に、マンホールから溢れ始めています。こちらは、付近の地盤高の中で一番低くなっておりまして、こちらが一番最初に溢れております。それから、こちらの東高津小学校に向かって坂になっておりますので、北見方 1 丁目、2 丁目、3 丁目の方が、若干高度が上がっておりますので、時間差で浸水していると考えております。

下水道計画課長：

多摩川の土砂の件なんですけど、先日、京浜河川事務所の田園調布出張所の方に、こちらの説明会でも以前ご質問いただきまして、その他のところでもご質問いただきましたので、国の方に要望はしてきました。その中で、国の方としては、川の中を含めて 200m ピッチで横断図を作っているの、5 年毎にそれをやっているらしいんですけど、大きな出水があった場合にも、それを確認してると、ということですので、今回、やはり川底があがっているのではないかというご意見もいただいているので、引き続き我々の方といたしましては、ゲートの改良等でまた、京浜河川事務所のほうに協議に参りますので、引き続き、この件について、皆さんのご要望の方をお伝えしていきたいと考えております。あともう 1 点、防災の予算についてのご質問になるんですけど、こちらにつきましても、しっかりと、国と調整して、補正の予算であるとか、また令和 2 年度の予算ですとか、そういうものをしっかりと獲得してですね、防災対策を進めて行きたいと考えてございます。

質問者 7：

資料のですね、諏訪-5 のところなんですけども。元々、雨水管の出口ゲートというのは、津波だとか、高潮で、その河川の水が入ってくるのを防止するために、設置されていると思うんですけど。今回みたいに、内水が氾濫をすでに、起きているときに、それを逆流を防止するためには、たぶん設置されていないんじゃないかと。なぜならですね、あのゲートっ

て、水が流れている状態で開け閉めが出来ない構造じゃないかと思われるんですね。実際に水が流れている時、雨水が排水されている時だとか、あるいはまあ、今回みたいに逆流している時に、手動のゲートで、あのゲート動きます。たぶん動かないですよ。だから、そういうゲートじゃないんですよ。だから、ゲート閉めなかったのが逆流の原因ですというのは、全然間違っています。それから、5ページのところで田園調布（上）水位観測所と書いてありますが、この水位計はここから 5km くらい下流ですよ。何でそんな離れたところの水位計を基準にして、ここのゲートを開け閉めするなんていう運転方案をつくっちゃうんです。これは、なにも考えてないということです。これは、ただ逆流、下流のほうから逆流してきたもんを開け閉めする。逆流しないように、川の水が逆流しないように、開け閉めするためにこのゲートは造られてるんです。もともと、今回みたいな大雨が降ってる時に、開けたり閉めたりっていうのは考えられてないわけですね、だいたい人が、あそこにはいない。警戒区域だとか、避難指示がでた時に、上下水道の人は命を張って、あそこのゲートまで行って閉めるんですか。そんなことしないですよ。ほかでもなんか、ポンプ場はなれて、ポンプ排水はやめましたって言って、堤防破れたとこありましたよね。今回だって、トラックの上の分が、だめだから排水止めます。まあ、もともとあんな小さいポンプでは役に立たないんですけども。今後その、来年度のご予算時期は過ぎちゃってると思うんですけど、今から緊急で予算がつくかどうか知りませんが、ポンプをなんか用意したとして、本当に避難指示がでるときに、運用できるポンプなんですか。やはり、もうちょっとお金の使い方考えて欲しいんですよ。運用まで含めてです。それから、田園調布の水位計なんかをあてにしないでください。いや、あそこの水位計はしっかりしますよ。いつもオンラインで、国交省のデータですね、ほとんど欠測なしでデータ来ますから。たまに欠測しますけど。だったら、自分のとこで水位計付けなさいよ。出口のさ、ゲートのところに、水位計つけて、それを、今の IoT の技術を使えば、非常に安く、下水道局までデータもってこれますよ。そんなお金かかりません。まず外に、ゲートの外の水位を測る。これだったらそんなお金かからないですから。ゲートの改善はやっても、たぶん意味がない。だって手動のあれである限り、絶対閉まらない。電動化しても非常に難しいと思う。だから結局、来年やることは、水位計をつけること。それから、非常用のポンプを準備すること。そのポンプが大雨降っても、人が動けるような運転方案、人の配置をすること。ですが、やっぱり究極的には、常設の排水ポンプ場を造らなきゃだめですよ。毎年毎年、内水氾濫起こしてるんだから、ここは。毎年じゃないな、2、3年に1回は内水氾濫起こしてるんだから。絶対に、ポンプ場を造るべきです。あの諏訪の交差、信号のところのちょっと上流側に6階建てくらいのアパートかマンションありますけど、あそこにある駐車場って、結構、空いてますもん。あれ買収しちゃって、ポンプ場造りますってアイデアどうですか。まずは、人様の財産を云々して非常に申し訳ないんですけど、やっぱり、今日その方来てられないかもしれないですけど、来てるかもしれないですけど、あそこはポンプ場として非常にいい場所だと、あの幹線から 20m くらい行ったら、引っ込め

ばいいんで、それできれば、その間にお家が何軒かありますけども、まあ、その地下を通らせてもらうということですね。やれば、そんなにお金かかなくて、ポンプ場できるんじゃないかなと思うんですけど。その常設のポンプ場、是非検討してください。から、水位計は絶対つけてください。これが、お願いします。

下水道計画課長：

まず、いただきました、移動ポンプ車につきましては、今回、配置について工夫の方は考えて行きたいと考えてございます。また、今回、ゲートの改良の中で、言葉が足りなかったのですが、水位を取る位置が離れているって言うのは、今回経験して、どうかなって言うのは我々もそう思っていますので、水位計の設置に向けて、早急に対応していきたいと考えております。常設ポンプ場につきましては、今、土地の話がでたんですけど、実際あの広さの何倍もの土地が、実際は必要でございまして、ただそうは言いながらも、これから検討に入って、できること、それがポンプ場なのか、そういう貯留施設なのかは、まだわかりませんが、そういうことについても考えていきたいと思っております。

質問者 8：

今回の台風で起因した泥が、側溝や下水道管につまっていたと思うんですね。それを清掃されたって、お電話したら言われたんですけども、その作業完了報告書を確認させて欲しいとお願いしました。でも、今だもってホームページにも出てきてないようなんですが、出せない理由を教えてください。あと、諏訪地区では諏訪の町会長名で、再度、側溝の泥清掃の要望書を提出されたそうで、今週、月曜日、雨の強い中、清掃されたようなんですね。北見方地区の泥の撤去の予定を、今後の予定をお聞きしたいです。

中部下水道事務所管理課長：

最初にありました下水道管の清掃、側溝の泥の清掃と下水道管の清掃を、情報についてホームページにという、ご質問でよろしいでしょうか。すみません、道路側溝につきましては、高津区の道路公園センターというところで清掃をずっと行ってございまして、今頂いたご意見を、私のほうで、道路公園センターのほうで清掃しますので、中部下水道事務所では、側溝の清掃を行わないので、道路公園センターに確認をして、ご連絡を差し上げるように致しますので、そちらの、ご連絡先を後程、教えて頂きたいです。

市民 8：

はい、じゃ、いいですか。今の話はですね、私のほうで町会としてもお願いをしていますが、やっているという話なんですけどね、実際はまだやっていないです。で、お願いをしています。で、私の家の前はなんか、相当溜まってまして、みんなでやったんです、1回。近所で。まだそれでも、まだ周りの道路に水があるから、あれが溜まって、また入って、また溜まっちゃう。だからそれを根本的に直してくださいというのは、話したんです。道路公園センターにも話したんです。ですが、なかなかうまくいかない。そういうことなんで、検討してください。本当に。これはね、あの、埃が舞っちゃうんですよ。乾くと、そ

の乾きが埃になっちゃうんです。また口の中に入ってきちゃう。我々の喉がやられちゃう。ということなんで、これ大至急やってくださいということは、もうお願いをしたんです。で、それを皆さんが、違うから、部署が違うからと言われているけど、そうじゃなくて、市全体で考えてください。総務部長が今日来ているなら、総務部長が指揮をとって、そして市長なり、何なりに話してですね、全員でこう解決してもらわないと、これは解決できない。はっきり言って。で、水のことだけじゃなくてですね、そういうね、ことがいっぱいあるんです。で、先程から話を聞いてますけど、多摩川の水が溢れた。それが戻ってきましたよということですね、それはもうわかるんです。でも、多摩川の水があふれる、その原因は雨だけではないんですよ。雨が降ったから流れてくるんですけど、小河内ダムを開放したんですか。開放しなかったんですか。それは、どういうふうな形になっているんです。あの水を開放したら、多摩川の河口まで6時間かかるという話なんですね。で、6時間かかってきて、ずっと開放してしまっただらば、滞留するのは当たり前だと思うんですけど、そういう計算が、今までできていたのかなということです。そして、もし、小河内ダムの水を前から少しずつ出しとけば、いっぺんに出さなくても済んだんじゃないかと、いう話もあるんですけど、そういう話は、あの、役所の方ではどういうふうに考えているんですかね。私たちとしてはですはね、あの水があふれて、ぐッと来たためにということと、水が、雨が降ったためにということがありますが、でも、小河内の水を出したということも、相当な原因じゃないかと思うんです。それから、先程から聞いてますけど、雨水だ、雨水だと言ってますけど、雨水だけじゃありません。私の家あたりも、もうおっていました。ということは、多摩川の、この水は全部、雨水に流していると言いますが、他の地区は全部流れっちゃってますよ。それが多摩川の水として戻ってくれば、雨水だけじゃないんです。そうでしょ。だって、多摩川の中に汚水を流していないところなんかはないですよ、今、他のところ。それが全部戻ってきたことは、多摩川の水が、我々の所に入ってきたということです。その中には、汚水もあるし、雨水もある。雑排水もある。ということなんです。その辺もはっきりと、その話してもらいたいというふうに思います。まあ、町会としてもですね、全面的に色んなことをお願いしてはいますが、なかなかうまくいかないのが現状です。でもそれでも、今回の水害に対してはですね、役所自身が、区役所自身がですね、全面的に協力してくれたことは、はっきり言って認めていきたい。まあ、下水道局にもお願いしたこともあります。それは、それでいいんですけど。今、言った細かいこと自身が、まだまだ行き届いていないというのが現状です。それが、多摩川の水があふれる原因もですね、もう1つ考えてもらいたい。そういう、あの、小河内の大きなダムをね、放水したらどれくらいの水が出てくるかっていうシミュレーションをしているのかなというふうなことも、ちょっと気になったんですけど。以上です。

総務部長：

泥の件ですね、道路公園センターのほうにも町会長のほうから、もうすでに申し入れというところがございますけども、またここで、町会長をはじめ、他の方からも、ご意見出

ておりますので、また今回しっかり受け止めさせていただいて、また再度、私のほうからも強く言うておきますのでよろしくお願ひします。あと、どうしても今回、今日下水道部門の説明ということで、他の質問に十分に答えられない部分もございますが、お聞きしたことは、泥の件と同様に、しっかりと伝えて対応してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

管路保全課長：

小河内の放流のご質問でございます。多摩川の水位、今回すごく上がっていているというのは、町会長のおっしゃるとおり、小河内ダムは放流をずっとしている状況でした。あと、多摩川の上流に、強い雨がいったということも要因としてあると思います。今、現在、小河内がどういう量を放流したらどのくらい水位上がるか、上下水道局では検証してこなかったというのが現状でございます。ダムの放流だけではなくて、その周りの川、支川がいっぱいありますので、その支川にどれだけ降ったかということも影響があると思いますが、やはり、多摩川の水位が上がることにあって、ダムの放流と言うのが要因の1つだと思いますので。今回、多摩川の水位、多摩川の水位が増えた水だけじゃなくて、他の雑排水が流れてくるとかそういったことも多分入ってるかなとは思ひます。それが逆流してきたということは、うちの局でも認識しているところでございまして、今後、今回と同じような現象がないようにどうしたらいいのかっていうのは、先ほどからお話の、繰り返しなんですが、抜本的な対策として、先ほどお話をあったポンプ場の話、もう常設で置いたらどうかと、ということもございましたが、それには時間がすごくかかることとございまして、短期的なものとして、ゲートを閉めた場合の排水できるポンプが、全部ではないとは思ひますが、軽減できる方向ということ、そういったことは取り組んでまいりたいと考えております。

質問者9：

ちょっとすみません皆さんご迷惑かけます。あの途中から参加したので、同じような質問しましたらば申し訳ございません。確認させていただきたいことがあります。諏訪-4の地図の緑色に塗られている六ヶ村堀の排水の範囲についてなんですけども、あのちょっと、私が間違っているかもしれませんが、ちょっとわかりやすく言わせていただきます。高津区役所の裏手側から、ラフォーレの森あたりを通過して、南武線線路をわたって、●●●事務所、養護学校あたり二ヶ領用水を通過して第三京浜をわたり第三京浜下から多摩川土手までの範囲と、高津区役所裏側から津田山を通過して西高津中学校、高津小学校の前の道を通って大山街道から多摩川土手まで、この広大な範囲に集まった水が、諏訪幼稚園の正面玄関の下にある諏訪水中ポンプ一箇所だけで、多摩川土手、諏訪の信号の下の配水管に集められて多摩川に排水しているということで間違いはないですか。このくらい広い範囲のところを、昔は、まだ住宅地がなかったんで、ほとんど農地だったと思うんですね、そのころに作られた排水管だったので、下水管でしたね。だったので、雨水管ですかね。みんな地

下水に溜まったんだと思うんですよ、雨が。だけど、最近ではどこも住宅地になっているので、アスファルトに覆われてますから、全て地下には入らず、この諏訪地区の一箇所の所に集まって、排水できないから床上浸水とかになってるって思うんですよ。で、質問をもう1つさせていただきます。今回、諏訪-3のところの写真が3枚掲載されてますね。この諏訪幼稚園前にある諏訪水中ポンプっていうのが、ここには本来、3枚目の男性2人が立っている、後ろって言うのかな、奥のほうにあのあるはずなんです。それが、ですね、前回諏訪地区の説明会のときにね、諏訪地区の方が稼動していたんでしょかと質問をしました。そうしましたらば、そちらの回答が、途中までは動いていましたけど、途中から動かなくなったとのことでした。しかしですね、前回、2年前の台風的时候は、この水中ポンプの中と、先ほどから話している③のところの写真に写っているマンホールから噴水出ていますよね、そこの二箇所に移動式ポンプを入れて多摩川に排水してました。今回のほうが、大型台風で、雨量も多いと言われてたのに、マンホールの噴水になるところにしか移動式ポンプが入れられていませんでした。その理由も知りたいし、あと移動式ポンプのホースなんですけど、ホース、移動式ポンプなんですけども、こういった広い地域に対して何台設置されてたんでしょか。前回、ちょっと1台って聞いた気がして、こんなに先ほどから言っている役所の後ろのほうからとか、第三京浜とか、246のほうから集まってきている水をですね、たった1台のポンプ車、移動式ポンプ車、それも高さがどのくらいの高さのポンプか、トラックの上に乗せて移動して逃げた、逃げたって言葉はちょっと変なんですけど、汲み上げきれないので、そこから撤退した。そのポンプ自体の大きさも知りたいし、何台あったんでしょか。後はですね、また同じ様な質問になりますけども、先程、多摩川の浚渫要請を国土交通省に少ししていこうというお話を聞いて、それは理解できるんですけども、川崎市の土地も土手には、河原の河川敷にはあると思うんですね。そこは、今回の土砂とかもたくさん溜まったことにより、逆にバーベキュー場が広がったりですね、ゴルフ場とか野球場のために税金を使うようなことはせずにですね、是非、住民のためにですね、自分たち川崎市の土地としてがあるところだけでもいいですから、少し掘っていただいてですね、毎日の生活の安全を確保をしていただきたいと思います。

中部下水道事務所管理課長：

移動式ポンプにつきましては、1台のみです。その1台で、今回、写真にあります、3番の写真のマンホールのところ、運転して排水を行っておりましたが、この排水が多摩川の逆流に、負けてしましまして排水できなかったというのが現状になります。次の、現場に設置しております、もう一方のポンプにつきましては・・・

施設保全課長：

今のお話ですと、六ヶ村堀排水区の水が、この諏訪幼稚園のところにあります諏訪仮排水所というところに集められて排水されるのかというお話だったと思いますが、そこは、そうではなくてですね、この六ヶ村堀排水区の水というのは、自然流下で多摩川に出て行くものでございます。諏訪幼稚園のところにあります諏訪仮排水所というのは、この諏

訪幼稚園の土地が少し低いもので、諏訪幼稚園の周りに降った、雨の時に捌けにくいということで、仮排水所が設置されているものでございまして、六ヶ村堀排水区の水を全てここで排水するという目的ではございません。すいません。続けて、もうひとつお話しておきます。先日の諏訪の説明会の中で、この仮排水所のポンプが故障しましたというのは、私からお話させていただいたところでございます。原因としましては、多摩川の水位が高くなって、浸水が起き始めて、ここに仮排水所のポンプを補完する目的で移動式のポンプを設置したんですが、それでも浸水が止まらなかったということで、水嵩が上がってきて、仮排水所のポンプを動かす電気の動力制御盤というのがございまして、そこまで水が浸かりましたので、ポンプが故障して停止したという状況でございます。

下水道計画課長：

バーベキュー場のお話が出た河川敷の清掃のところにつきましては、直接、樋管の水路のところについては、下水道事務所の方で泥については、流下を阻害させないために清掃のほうはしたんですけど、まだ高水敷等、その辺残っているところでございます。これにつきましては、直接下水道の予算ではやってはいないんですけど、市の中で関係課と共有をさせていただきたいなと思ってございます。

質問者 10：

詳しい方ばかりの質問ですね、僕は肝心なことを実は、何も聞いていません。今回、浸水した原因はいったい何なのか。推定原因しかないのであれば、何と、何と何なのか、これをまず教えて下さい。さっき、僕が関連して質問させて下さいといったのは、10年前のお話をされた方がいらっしゃいました。10年前に浸水した時の原因を、この場ではっきりして下さい。皆さんは、10年前に既に市の職員としていらっしゃった筈です。でなければ、次の雨の時までに、次の雨の時までに、ちゃんとした対策がとれないじゃないですか。いいですか、原因が分からないのに対策がとれるわけがないんです。10年前どうだったのか、今回の推定原因は何なのか。これの1つ1つについて、前の資料を作って、いつまでに何をするか、これを早急に、我々に提示してください。でなければ、こういう会を開いても意味ないですよ。細かいこと、色んなことを言ってもしょうがない、ここの書いてあることなんて、これは全然、僕には理解できません。何が原因なのかさっぱり分からない。もう少し要領よく説明して下さい。僕らは専門家ではありません。分からないんですよ、何も。分かりやすく説明をしてください。で、答えて下さい。

下水道計画課長：

先程10年前のお話をさせていただいたんですが、10年前に浸水した記録のほうは、調べて手元に用意して、先程、床上が4棟、床下が9棟と、説明のほうをさせていただきました。当時の原因なんですけど、分かっている範囲だけで本当申し訳ないんですけど、当時、台風9号の影響ですかね。そちらで雨量が多摩川上流域で観測史上が当時最大に至ったということ、712mmというのが記録されたこと、ということで、調布の石原のところで、水位が

高かったと聞いています。ですので、台風の影響を受けて、浸水のほうが起きてしまったというふうに把握しているところでございます。

質問者 10 :

そしたらね、台風が来たら浸水しちゃうということですか。

下水道計画課長 :

説明が足りなくて申し訳ないんですけど、台風で、今回も浸水被害が発生したんですけど、一般的にこの地区は自然に排水する地区ということで、今まで計画されて、今こうやってやってきてるわけなんですけど、多摩川に降る雨、上流域含めて、上流域で大雨が降ったと、先程、下流まで到達するまで大体 5 時間から 6 時間かかるという中で、その中で多摩川の上流域に雨が降って、多摩川の水位が上がるピークと、川崎市内に雨が降るピークってというのが、ずれているケースが多いということで、今のルールの中では、降ってないときには閉めますというルールになっていたところなんですけど、当時については、もう少し、ご意見をいただいたので、よく調べなければいけないと思っているところなんですけど、少なくとも多摩川の影響だっていうのは、ご説明したとおりですし、その時にどうだったかっていうのは、もう少ししっかり調べて、今後活かしていきたいと考えてございます。

下水道管路保全課長 :

続けて、今回の浸水の原因についてでございますが、多摩川の水位が高くて、多摩川の水が逆流してきたということが、こちらの地域に浸水があったという原因と今、考えてございます。今後、何をいつまでに何をするのかということですが、多摩川の水位が今回、高かったこと、で、こんなに浸水、今日お示ししています浸水の範囲がこれだけあるということは、今回の事象としてありますので、先ほどありました 10 年前はどういう水位で、どうだったのか、そういうことを、検証をしっかりして、対策を考えていきたいと思っておりますが、短期的に、まずはそのゲートを閉めて被害を減らせればいいですが、全部の水がはけないので、ポンプ車を用意する、短期的にできることですね、先ほどゲートの運用をもう一回見直す、そういったことを、短期的に、すぐ次の雨季までにやっていきたいと考えているところでございます。

質問者 10 :

回答になってないんですよ。多摩川の水位が上がったっていうのは当たり前の話なんです。水位が上がったときにどうするかっていうのと、なぜ水位が上がってここが氾濫した、氾濫というか逆流したか。それが原因なんです。いいですか。今の話だけでは、台風が原因になっちゃうんですよ。違うでしょ。あなた方が今までやってきた治水対策のどっかに原因があるんじゃないんですかって質問してるんです。それを皆さんがさっきから細かい、よく知っておられる方が、土砂が堆積して底掘んなきゃいけないとか、それからゲートの問題ですか、されてるわけでしょ。今回ね、もし、堤防の上から水が来たんだったら、これはしょうがないですよ、僕はあきらめますよ。国の政策あるいは、各多摩川を管理して

いるところが造った堤防が低すぎたんです。でも、今回違いますよね。堤防の上から水来てないですよね。何か他が原因です。そこをちゃんとやってくださいって言うてるんです。さっき、どなたかがゲートを閉まんないんじゃないかという話をされてたでしょ。閉まるんですか。答えてないんです、質問に。ですから10年前のことをどういうふうに検証して、どういうふうにやったかって質問をしたんですよ。だから先ほどの方の質問って、すごくいい質問なんです、10年前の話っていうのは。それをきちんとあなた方がしてないからこういうことになったんじゃないかって言うてるんです。どうなんです、総務部長教えてください。あなた10年前いたでしょ。

総務部長：

私、10年前ですと、下水道事業には携わっておりませんが市役所にはおりました。あの原因につきましては、先程も繰り返しのなってしまうんですが、多摩川の水位が1930年以降観測史上最高の10.81というのを記録していると、という中でゲートを閉めない判断をした中で、下水道管を通じて、多摩川の水が逆流してきていったということが原因だと考えているところでございます。

質問者10：

ということはゲートを閉めればよかったと。

総務部長：

そのゲートを閉めるということは、先ほども言ってますけど、総合的な判断として、当時多摩川の水位が上がる一方で、超大型の台風がまだ接近してきていて、降雨として50mm、一時的には80mmの雨が降ると・・・

質問者10：

わかりました、わかりました。僕が言いたいのは、もし今、あなたがおっしゃったとおりだったら、今回なんでゲートを閉めるって判断をしなかったんですか。前回の時、ゲート閉めなくて、もし氾濫したんだったら、今回ゲート閉めるべきだったんじゃないですか。違うんですか。もう理解できないです、あなた方の説明は。10年前にゲートを閉めなかったから、氾濫したんだったら今回ゲートを閉めたんですか。さっき閉めてないって言ったでしょ、この中に書いてある。矛盾してるじゃないですか。だから、ちゃんと検証をしてちゃんとしたことをやってくださいって言うてるんです、さっきから。

市民10：

すみません、10年前はちゃんと閉めてます。

質問者10：

閉めてる。閉めてるんだそうです。あなたの言うてることと違うじゃないですか。

市民10：

ちゃんとこここのとこ調べてください。私、上下水道局の人連れてきましたから、10年前。

質問者10：

あのね、ここでやってる説明会っていうのはね、言い逃れじゃだめなんです。僕ら何

がしたいかって、次があっちゃ困るんですよ。いいですか。次回は嫌なんですよ、こんなことは。それだけなんです。来年のこのシーズンまでじゃなくてね、次に大雨が降るまでになんとかしてくださいって言うてるんですよ、皆。ちょっとついでにもう1つ。さっき、どなたかが、後始末の話してましたよね。後始末。これ、総務部長がちょうどいいんですけどね、下水道局の管理があまりよくなかった、仮にですよ、としたとしたら、後始末はね、市が責任をもってやってくださいよ、全部。違いますか。あの、僕らになんにも責任がない。と思います。お願いしますよ、皆困ってんです。

総務部長：

私は、上下水道局の総務部長でございますので、立場的には、あれなんですけども、今いただいたお話については、しっかり伝えてまいりたいというふうに考えてございます。同じ台風であっても、その来たときの状況ですとか、降雨の状況とか、どこに降ってるとか、いうところが違いますので、そのときの対応も違うんだというふうに考えてございますので、いずれにしても10年前も含めて、今回の台風の被害について、しっかり検証させていただいて、繰り返しですけども、短期、中期、長期の取り組みをしっかりまとめていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

質問者11：

単純に、ゲート閉めればよかったよねと、皆思ってるし、水道局の方も、そうすればよかったんじゃないかなと思ってるんじゃないかなと思うんですが、実際あの、その辺の検証についてしっかりやられていたのかなってことがお伺いしたいです。というのは、13ha、最大浸水2m、えっと、この水量って、どれくらいかもう、計算してありますよね。当然のことながら。なぜかという、その水量が、ゲート閉めたことによって、雨水が溜まって2mも行かない浸水だったら閉めればよかったよねって話じゃないですか。そのへんの検証ってちゃんとやっていますか。そこを聞きたい。

下水道計画課長：

検証につきましては今後、今回5箇所被害が起きてございますので、その中で、閉めた時と開いた時、そういうところがどうだったかというのは検証していきたいと考えてございます。

質問者11：

まだですね。そしたら僕ね、すごいね、今日の午後計算したんですけど、素人が。簡単に計算するとね。この北見方地区に溢れた水っていうのが、86,000m³なんですよ。高さが2mの底辺が13haの三角錐の単純な計算です。じゃあ、この北見方で担当している水量がどれくらいなのっていったら、これも分かってるかどうか分かんないですけども、だいたい今回の雨では、218,000m³です。まあこの話、数字言っても全然わかんないと思うんですけど、単純に言うと、溢れた13haっていうのは、諏訪樋管地区の5%に過ぎないんですよ。でね、この5%に2mの水を溢れさせようと思ったら、全体の40%、40%の水を全部持ってきて

はじめて 2mの浸水になるんです。40%の水、溜まりますか。そんな、そんな単純な水を溜めるコップでもないのに。そういうね、ものすごい、なんかこう算数レベルの計算を、まずちゃんとやっていただきたい。閉めたらどれくらい溢れるのか。閉めなかったらどれくらい溢れるのか。それは、別に難しい計算でもなんでもないんで、それをね、ちゃんと市役所の人が揃ってるんだったら、頭使ってちょっと考えて、閉めたときの被害、閉めないときの被害というのを考えてやってください。その上でポンプとか、どれくらいいるのかって、そういう答えは、一応持ってきて欲しかったと思います。以上です。

下水道計画課長：

ありがとうございます。今後検討してまいりますのでよろしくお願いいたします。

質問者 12：

ちょっと皆さんと、角度が違うかもしれないのですが、是非、僕の話、50 数年前の話です。どっから話していいか非常に長いんです。僕は、今のこの浸水した 2 丁目のところで生まれまして、小学校 1 年のときに 3 丁目の第三京浜より下野毛側になります。だから、ここの排水樋管ではないのですが、今回も水は出ました。ただ、まず、皆さんにお聞きしたいのは、第三京浜が出来たのは、僕が高校の時なんです、そこに、両側に数十 cm の、第三京浜が自然の雨どいになっちゃいまして、それが全部、多摩堤通りを超えて両サイドに、第一の橋桁から、多摩川に落ちているということをご存知でしょうか。僕はつい先日、手紙を書きましたけれども、この中でそれを、土手に行けば、今でもありますので。それを現認した方はちょっと手を挙げてください。土手に行けば誰でも見えますよ。あの、ランニングコースの最初の橋桁に落ちているんですね、両サイドです。それは 10cm や 20cm ではありません。それがですね、僕がまだ 20 歳の大学に入った頃なんです、北見方の町会長がですね、今の正副寺というね、前で、食料品店をやってまして土地の方です。土地の農家の方です。その方が、結局こう、自然の樋になって、うちの前の下水、最初は小川だったんですけど、そこがすぐ氾濫するようになりまして、それで、非常に北見方の事を考えてくださって、そして国会に陳情に行ってくれたんです。それで、僕は被害者なんで陳情書を書けということで、訳が分からずなんか適当に書いたのですが、とにかく 5 人で、役員の方で、●●●(政党名)の方だったと思うんですけど、議員会館で渡していただきました。そうしたら、第三京浜の方はですね、工事を進めてくれた。相当お金がかかったと思いますが、そしたら下水が少し止まったんですね。氾濫が止まったんです。その後、ずっと経ってですね、この形式になりましてから一切水が出なくなりました。で、実はその 50 数年前にですね、●●●(個人名)元会長が仰ったことがですね、今の 2 丁目のところに、そうですね、●●●(商店)とか、●●●(商店)も、もうないですけど、それがあった頃だと思うのですが、相当 50 年も、もっと前だったかもしれませんが、はっきりしないのですが。私はここから飛びこんだって言ったんです。土手があるんです。それが、もしかしたらそのお父さんだった、お父さんが飛び込んだって言ったのかそこがハッキリし

ないのですが、それで僕はビックリしまして、ここが多摩川だったんだと。それで多少その事が縁で色々調べました。今この浸水地区ですね、うちは宮内の方の排水区で3丁目ですけど、ここじゃないですけども。ここは一番、その諏訪幼稚園あたりが、全部畑でして、田んぼとか全く家はありません。で、多摩川の河川敷なんです全部。二子橋から等々力ですね、御殿町のところまで、行って見ると全部坂になっているんですよ。うちの3丁目あたりは、第三京浜の、府中県道と交じりますが。そこの手前に農家がありまして、そこは河原と呼んでいるんです。だから、今のその、来てくださった方は、殆ど、一人も土地の、昔からの農家はいないはずですよ。住んでいないんですね。つまり、だいたい150年ぐらい前までは、土手がない訳です。明治になって、明治政府が今の土手を造っちゃったんだと思うんですね。戦前にはあったんですけど。だから、そういう意味では、ここは特殊といいますか、多摩川の河川敷なんです、僕が今住んでいるところも、3丁目も。そういうことを、まず、本下水も入りましたけど。そういうことを前提に、歴史的なことは考えておられるかどうか。それから、例えば、第三京浜の排水もそういう経緯があったわけですよ。で、今回は、またちょっとズレますが、今度は●●●(企業名)が出来ました。ところが、それ出れなかったんですけども。あの排水だって、第三京浜の雨樋ぐらい、第三京浜の料金所の自然雨樋ぐらい容量があるんですよ。そして、それを向こうに、僕はその、52年前の時に、土手に穴を開けたらよいと思ったけど、大変なことなんですよ、土手に穴を開けるというのは。県や市ではとても出来るようなことじゃない。だから、水門を造るのだと思うのですけれども。あの、そういう、皆さんはですね、それをよく分かるんですよ、被害を受けた方は。僕は、家を建て直した時には1m土地を上げまして、辛うじて今回の被害はなかったのですけれども。だから、歴史的な、そういうことをまず踏まえて。それから、僕は今心配しているのは、●●●(個人名)が言ったのは、300年に1回。これは、氾濫すると言ったんです。あの、土手、あの、府中街道のところまで来ると。だから、僕は来ると思います。それは来年、再来年・・・

司会：

大変恐れいますが、ご質問、ご意見は簡潔にお願いできますでしょうか。

質問者12：

皆さんに。そういう経緯があったと。歴史的な、その今住んでいるところは多摩川の河川敷なんだと、いうことをまあ知らせただけです。

質問者13：

ちょっと時間もあまりないんで2つだけ。1つはですね、先程、施策は長期施策と短期施策に分けて考えますと。短期施策のほうは、さっきもやりますと言いましたけども。その短期的な施策をすることによって、今回と同様な台風が来た時にですね、今回のような浸水が起こらないのかどうかということ。そこに確証がないんですということであれば、これは要望なんですけども、まあ、市・県・国の方の政策には時間がかかると思いますので、

住民側でできる対策。個々に、あの防水住宅とか、マンションの施設を止水ドアにするとか色々あると思うんですけども、こういう対策に対して、行政の方から資金を投じてもらうというようなことを検討いただくように要望していただきたいということをお願いします。

下水道計画課長：

まず、長期と短期の中で、短期で同等の場合があったらどうか、という事なんです。我々としては、今回の件を踏まえまして、目指すはゼロなんですけど、まず被害を最小化できることをしっかりやっていきたい。ただ、時間がかかることもあれば、短い時間で出来ることもありますので、先ほど申し上げましたような短期の対策をやって、被害の最小化に努めていきたい。ただ、実際に来年、再来年にどの位の雨が降るか、台風が来るかというのは、自然のこともありますので、そこにつきまちはしっかり情報収集をしながらしっかり対応のほうを図っていききたいと思います。あと止水板のような、他の都市さんでは、例えばそこに助成があったり、そういう制度があるということも我々も伺っておりますので、今回こういうご要望を受けましたので、色々調べていって、そういう制度の検討までいければなと考えております。

質問者 14：

まだ、全然出ていない話、1つあるんですけど。いいですか。諏訪-3っていうページがありますね。浸水があったという図なんですけど。●●●(住所)、メモしてください。ここは浸水していません。後ほど、きちんと更新するというお話があったと思うんです。このようなラフな形でですね、浸水があったとして扱われますと、大切な不動産価値が、あの、それこそ市役所からレッテルを貼られることになります。どのように正確性をとっているのか。それから、私の家だけでなく両隣も浸水していません。1cmもしていません。これ、幸いなことなんですけども。でもこれを見ると、あたかも浸水2mということが、市の公的な資料として残るよう見えますので、今後これの正確性について教えてください。それから私の家は浸水していませんのでよろしくをお願いします。

管路保全課長：

浸水していないところで塗ってるようになってしまっているのは、大変申し訳ございませんでした。台風の当日に、歩いてパトロールして、この範囲いうことで確認できているところ・・・

質問者 14：

全然見てないですよ、エリアふっただけだと思いますよ。もっと言うと、この隣も全然浸水していませんので。正確性をきちっとしてください。

管路保全課長：

再度、調査をしまして、正確な、絶対こうだということとは分かりませんが、いずれにせよ、ちゃんと情報を・・・・。

質問者 14 :

1 軒、1 軒確認して・・・

市民 14 :

1 軒、1 軒回ればいいじゃないか。

管路保全課長 :

今、調査している方法は、罹災証明を出していただいた家はどこなのかということ、調査してまして、ここは浸水があったなということ把握・・・

質問者 14 :

それだと回らないと思いますから、こちらから申請しますから、きちんと活かしていただけないか。窓口を教えてください。どこですか。どこに申請すれば、ちゃんと浸水していないということになるのか、そこをしっかりと教えていただけませんか。

市民 14 :

被災していないということを申し入れるところはどこですか、ということ。

質問者 14 :

そうです、そうです。両隣も浸水してません。

管路保全課長 :

申し訳ありません。そういった窓口が今どこかということが、今即答できないので、私のほうに、もしそのような方々がいらっしゃれば、情報としていただきたいなと思います。

質問者 14 :

じゃあ、この後は、お伝えしますので。

管路保全課長 :

はい。よろしくをお願いします。

質問者 15 :

今回のその話といいますか、今回の浸水被害の原因は、河川水の逆流によるものと書かれていて、ということは、今回の浸水被害の責任はゲートを閉めないというふうに判断された上下水道局にあるというふうには私は考えているんですけど、それでよろしいのでしょうか。多分、前の方の質問とかにもあったと思うんですけど。今回、結果論になっちゃいますけれども、後追いですけれども、今回のトータルの降水量だとか、もし水門を閉めた場合にどの位までの浸水被害が起こったかどうかというのを検証していただければ、責任の所在というのがはっきりすると思うんですね。やっぱり泥水が入ってしまうと、子供の服も、もう捨てるしかないですし、雨水だけだったら我慢できたものが、やっぱりね、汚水が含まれている土砂にまみれてしまったので、どうしても今回の浸水の責任が、どこなんだろうというふうにちょっと思っちゃいますよ。なので、この総合的に判断されたのは、私は今までの説明の中で上下水道局の皆さん、どこの部署か分からないですけども、どの立場かわからないんですけども、その方たちに責任があるのかなというふうに思

うのですが、そこら辺はどうかのかなと、お答えいただければと思います。

管路保全課長：

台風当日、ゲートの操作につきましては、資料でご説明させていただいたとおりなのですが、ゲートを閉めるって判断は多摩川の水位が、田園調布（上）で6mの時に判断をしたんですが、降雨が、まだあったことと、先ほど説明もあったりしましたが、台風がこれから上陸してくると、気象庁の横浜気象台の発表ですと・・・

質問者 15：

あの、すみません。その話は先ほども聞いたので。そういった細かい話ではなく、水門を閉めなかったと判断したことによる、水害だというふうに私は認識しているんですけども。水門を閉めないと判断された、上下水道局の方々に今回の水害の責任、原因があると私は思っているのですが、どうでしょうか。

管路保全課長：

私どもとしましては、台風当日、手順に従って、一生懸命対応したと考えております。対応させていただいたと思っております。今後、今回の事象を、検証をいたしまして・・・

市民 15：

イエスカ、ノーだ。

質問者 15：

責任の所在がどうしても、知りたいなと。

総務部長：

今後ですね、来年の3月までにゲート操作を含めて検証のほうをしまいたします。

質問者 15：

いえ、検証とかそういうのは先ほども聞いたので。そうではなく、今回のこの被害、各自皆さん、火災保険とか入って頑張って修繕されてらっしゃる方もいるんですけども、やはり、そういうのに間に合わない方もいらっしゃるし、市から出てる応急修理制度の金額では、とてもとても間に合わない。どうしてもね、そういったところもあるので、どちらにこう、相談すればいいのかなと思ひまして。責任は、今回の被害は、どちらにあるのでしょうか。

総務部長：

賠償につながるという事で、よろしいでしょうか。

質問者 15：

まだ、そこまでは考えていないのですけれども。現時点で、もし、上下水道局が、自分のところに責任があるというふうにお考えなのかどうか。やっぱりそれって検証をした結果だと思うんですね。だから先ほどの方も、この2箇月の間に、水門を閉めた場合にシュミレーションをしまして言うふうに伺ったんだと思います。

総務部長：

そうですね、おっしゃるとおりですね。これからしっかりゲート操作も含めて検証をし

てまいりますので・・・

市民 15 :

いつまでに。

総務部長 :

3月までにです。

市民 15 :

結果がイエスだったら、賠償はでるんですか。出るんですか。

市民 15 :

前回やってみて駄目だったじゃないか。

総務部長 :

その、検証結果を踏まえてですね・・・

市民 15 :

今、賠償につながるからですかって言ったら、返事を拒みましたよね。

総務部長 :

検証結果を踏まえて、適切に対応してまいります。

市民 15 :

はっきりしてよ。

市民 15 :

賠償請求につながるから言えないんだよ、ここでは。

市民 15 :

市長ですか、危機管理監ですか。

質問者 16 :

先ほど出てた10年前の浸水の件なんですけど、この時、私ところの駐車場が冠水しました。車も7台ぐらいやられてしまったと。その時に、マンションの管理組合として、区役所の方に、上下水道局含めて、色んな話をさせてもらったんですけど、私どもの記憶ではその時は閉めてるはずなんです。水門を。で、雨水であふれて駐車場冠水しました。その時の雨量のほうが、高かったと、記憶しています。で、今回の、雨量に対して、川の水位と、その時の水位で比べた場合に、なぜ開けるって言う判断をしたのか、ちょっと理解できない。前の方が多分、雨量的には多かったはずなんです。それをちょっとお聞きしたいのと。10年前に同じようなことがあったときの状況を今把握されてないのがちょっと意味わかんないですね。ちょっと、その辺をお答えいただければと思うんですけど。で今後のところをもう1つ。今後のところで今年台風きます。また。その時の対処って言うのは、今ルールに従って開けたって言ってましたけど、それは、変えないんですか、変えるんですか。先ほどの女性の方も言われてましたけど、雨水なら、まだ、なんとかなるかなと思いますけど、この汚水の状況で、うちのマンションの1階8世帯全部解体です。ちょ

っとそういう状況も踏まえて、多分、役所の方っていうのは、マンションの中まで見てないと思うんですけど。踏まえてちょっと答えを聞かせてください。

市民 16 :

10 年前、うちのマンションの駐車場まで上下水道局の方来ましたよ。その方の名刺も今回の台風で流されて・・・

中部下水道事務所管理課長 :

平成 19 年の 9 月の台風の時には、朝の 6 時 52 分に、ゲートを閉めまして、その後 9 時 37 分にゲートをまた開けているという状況は、調べておるんですけども、具体的な内容については、すいません。私のほうで今、把握してないので、詳しい内容にはお答えできなくて申し訳ありません。

市民 16 :

それは答えてもらえんの。調べろよ。

中部下水道事務所管理課長 :

調査を、10 年前の資料の調査をいたします。

市民 16 :

きちんと改善されてないから、今回のようなことが起こったんじゃないかって・・・

市民 16 :

そうだ。

市民 16 :

質問にあってない。

市民 16 :

その時こられた方は、計画降雨が 52mm っていうのは実際少ないと、今後雨量が増えるのでということは具体的におっしゃってました。私しっかり記憶してます。それから何も改善しないっていうことでしょ。今、ここ、計画降雨 52mm。だから 10 年前と変わってない。何も治水事業が行われてないってこと。そういことだよ。

中部下水道事務所管理課長 :

はい、計画降雨は変わっておりません。

市民 16 :

今回の時間降雨は 20mm いてないよ。一番降った 12 時台と 15 時台を見ても 20mm いてるかいかないかだよ。他の時間は 10mm 台しか降ってないよ。時間降雨が。何で 10 分降雨なんていうさ、データを持ってくるの。時間降雨で、全部言ってるんだからさ、時間降雨のデータ持って来なさいよ。たいした雨じゃないんだよ、今回の雨は。

市民 16 :

ずっと上げてらっしゃいますよ。

司会 :

承知しています。

市民 16 :

じゃあ、ここどうするか教えてください。

市民 16 :

田園調布を判断基準にするのか、変えるのかとか。

中部下水道事務所管理課長 :

今回のこれだけ大きな浸水被害が発生しているということで、これまでのゲートの操作判断の手順については、今後きっちりと検証しまして、変更する予定でございます。

市民 16 :

その前にさ、ゲートの判断は最終的に誰がするのこれ。あなたがしてるの。

中部下水道事務所管理課長 :

ゲートの判断につきましては、うちの事務所の所長が行っております。

市民 16 :

ってことは、その人の責任ってこと。

市民 16 :

市の責任だよ。

市民 16 :

ちゃんとそういうことを検証してね。しかるべき人が判断しないとおかしいじゃないの、そういうのは。さっき聞いた原因というのは・・・

下水道部長 :

それにつきましてはですね、先ほどから言ってますとおり、しっかりと検証をして、そのゲートのルールを、しっかりと、しっかりと判断できるような形で、今後、3月までには、決めてまいりますので、どうかよろしくお願いします。

市民 16 :

10年前にできてないのにどうやってやるの。

下水道部長 :

10年前もそうですし、今回の事象も、シミュレーションした上で、どうやってやったらゲートが一番ちゃんとできるかってことを検証しますので、それを3月までにしっかりと出しますので、よろしくお願いします。

市民 16 :

2年前も起きてるんだからさ、2年前も検証して。

下水道部長 :

今まであったやつを検証した上で、ゲートの操作を決めていきますので、よろしくお願いします。

市民 16 :

どうして今までは検証しなかったんですか。回答しなよ。どうして今までしなかったのに、今度の3月までに検証できるって言い切れるんですか。

下水道部長：

それにつきましては、事象全部集めまして、その現象全部シミュレーションできますので。それをすべて、網羅した上で、検証した上でゲート操作を決めていきたいと思っております。

市民 16：

適当なこと言うな。

市民 16：

してからやれよ。説明会。

質問者 17：

3点お伺いします。諏訪-3 ページ目の地図の内容が、今回の浸水面積ということなんですが、もし、仮定で申し上げていいのかわからないんですけども、今回降水量、降水時間が増えた場合、降水範囲というのはどのような広がりをするか現時点では考えられていますか。ていうのが1点目。2点目が降水範囲、浸水した範囲の広がり方にもよると思いますが、僕が住んでいるところでの一時避難場所は今いるこの小学校なのですが、とても浸水している地域と近いです。どれくらい、今回の台風の状況を踏まえた上で、どれくらい、更に降水量が増えたり、時間が長くなったりすると、この小学校が一時避難場所として、使えるのか、使えないのか。3点目が、一時避難場所としてこの小学校が使えない場合、どこへ避難すればいいのかということをお伺いしたいです。

下水道計画課長：

今、ご質問ございました、浸水の範囲についてでございますが。これにつきましては、降った雨の強さと時間によってですね、浸水深とかも変わってきますので、その辺については、単純に、この雨だからどうだ、別の雨だからどうだと、なかなか難しいところがあると考えてございます。東高津小学校が使えるのか使えないのかということなんですけど、こちらにつきましては今、川崎市の方では、浸水の実績というものを過去10年間浸水があったところについて、赤丸印で、地図上に示しているだけでございますので、やはりちょっとそこらへんはわかりにくいというふうに考えてございまして、その浸水、想定される雨に対しての浸水深であったり、浸水状況がわかる、ハザードマップを作って、来年度お示ししたいなということで考えてございます。その際に、避難所になる小学校が浸水してしまうとか、そういう恐れがある場合については、しっかり避難経路であったり、どこに行くべきか、わかるような形で、市民の皆様にお知らせできるように考えていきたいと思っております。

質問者 17：

現状では、小学校以外の避難を推奨する場所はないということですか。

下水道計画課長：

今現在、避難所というのは、それぞれその地区ごとに小学校が設定されていると思うん

ですが、そちら、浸水の想定降雨で、実際にやってみたときに、逆に避難所として機能できないような状態であれば、それはまた市の中で調整して、そこについては避難所として、避難所とすべきか、そうすべきでないかという問題もありますので、そこについてはしっかり整理してお示しできればと思っております。

質問者 17 :

浸水地域に関して、円状に広がると思っはいませんが、こちらの土地の高低差もあると思いますが、北のほう浸水地域が、東へ西へというふうな推測もありませんか。

下水道計画課長 :

浸水深と浸水範囲というのは、地盤の状況、その部分が結構大きい部分があるかと思ひます。ですので、その部分で、浸水深というのは変わってきますので。少なくとも今、東高津小学校が、何かあったときに避難所にならないのではないかと、なるのではないかと、いうことはこの中でお示ししてませんので、別途、作成します、ハザードマップの方でしっかりお示しをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

質問者 17 :

ありがとうございました。

司会 :

大変申し訳ございません。そろそろ、時間もおしてまいりましたので、総括的な事項を、下水道部長の鈴木のほうからお話をさせていただきます。

下水道部長 :

本日は、説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。下水道部長の鈴木でございます。冒頭にも、お話をさせていただきましたが、今回の被害については、我々も重く受け止めているところでございます。今日も皆様に、貴重なご意見であったり、厳しいご意見であったり、要望であったりいただきましたので、改めましてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。それから、今回のゲートの操作につきましては、我々としても難しい中での判断をしたと思っておりますが、現実的には、結果として、これだけの浸水被害が起きてしまったということでございますので、このことにつきましては、しっかりと原因を検証した上で、先程から言ってますとおり短期的な対策、中長期的な対策、その一定の方向性を 3 月末には示していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひ致します。本日は、大変ありがとうございました。

司会 :

本日の質疑内容等につきましては、後日、上下水道局のホームページにて、公表をいたしますので、ご参考にしていただければと思ひます。なお、ホームページをご覧になれない方につきましては、お帰りの際、受付にお知らせいただきますようお願いいたします。これもちまして、本日の説明会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。